

第4学年国語科学習指導案

平成16年10月5日(火)第2校時

4年3組(男子14名、女子15名、29名)

指導者 栗谷川 尚 志

- 1 単元名 心に残る発表会をしよう
教材名 十さいを祝おう

2 単元について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、「話すこと・聞くこと」の学習では、「無人島でくらすとしたら」で無人島に持っていく7つの道具を決めるために、グループで話し合っ意見をもとめる学習をした。無人島で過ごす計画と持ち物について、具体的に理由を挙げて自分の意見が伝わるように話したり、互いの考えの共通点や相違点を考えながら友達の意見を聞いたりする活動を通して、積極的に話し合いに関わろうとする児童が多くなってきている。また、帰りの会において「1分間スピーチ」の場を設定し、自分の考えを相手に分かりやすく話したり、友達のスピーチを話の中心に気を付けながら聞いたりする活動を行ってきた。

このような学習や活動を通して、子供たちは自分の考えに根拠や具体的な例を挙げながら話したり、友達の考えを聞いて自分の感想をもったりするようになってきた。また、話し合い活動において、それぞれの意見のよいところを取り入れながらひとつの意見にまとめようという意識も高まってきている。

(2) 単元のあらまし

本単元の指導内容は以下の通りである。

A 話すこと・聞くこと

ア 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

イ 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめること。

ウ 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと。

本単元は、自分のこれまでの10年間を思い出し、過去を振り返らせるとともに、これからの自分の生き方について考え、その思いをスピーチという形で発信するという教材である。また、「十歳を祝う会」の計画について話し合う活動を行う。「話すこと・聞くこと」の学習においては、「無人島でくらすとしたら」という題材を通して「ウ互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと」を指導してきた。グループごとの話し合いであった点において、本単元と話し合いの形式は異なるが、自分の考えを分かりやすく伝えようとしたり、互いの考えを理解し合おうとしたりする点では共通している。

本単元は、十歳を祝う発表会の計画を話し合うことと、発表会で自分の思いや願いをこめたスピーチをすることをねらいとし、話し合うこと、人前で話すことの2つを中心に学習していく。ここでは発表者としてのみならず、司会者としての話し合いの進め方を学習することから、本単元における学習は今後の話し合い活動にためにも、たいへん有用であると考えられる。

(3) 指導に当たって

本単元では、「十歳を祝う会」を開くため、話し合いの場をもつ。話し合いでは、自分の考えが相手に伝わるよう分かりやすく話したり、自分の考えとの相違点や共通点に着目しながら聞いたりすることが大切である。話し合いに臨む姿勢として、まずは相手の考えの中心をしっかりとらえ、それを受けて自分の考えを話すという点に重点をおいて指導していきたい。

発表会のスピーチの準備を行う段階では、テープレコーダーやストップウォッチを活用し、自分の話し方やスピーチにかかる時間などについて、客観的にとらえる活動を取り入れる。また、グループで互いのスピーチを聞き合い、スピーチメモの内容を検討・修正する。話すときの目線や速さ、声の大きさはどうか、時間は適切かななどの視点でアドバイスし合う。こうした友達どうしの意見交流によって、自分のスピーチを見直し、よりよいスピーチの仕方に気付くという「学び合い」の充実を図りながら、指導にあたっていきたい。

三つの手立て		具体的な取り組み
1	学習への意欲と見通しをもたせる導入の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・前時やこれまでの学習を想起し、本時の学習の見通しを持たせるように、学習計画表を提示する。
	意欲を高める導入の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・各単位時間の振り返りから、本時の課題や学習につながるものを取り上げる。
2	学び合いを充実させるための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチの練習の場面において、テープレコーダーや評価カード(アドバイスカード)を活用する。
	よりよい考えを練り上げていくための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの考えの相違点や共通点を考えながら話し合うよう支援する。
3	振り返りの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを交流し合うことにより、学びや自他の高まりを認め合ったり、次時の活動の見通しをもったりすることができるようにする。

3 単元の目標

十歳を祝う発表会計画を話し合い、発表会では自分の思いや願いをこめたスピーチをする。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・「十さいを祝おう」という気持ちや思いを大事にして、楽しい発表会を開くためにすすんで話し合おうとする。 ・自分の思いや願い、夢、決意などをスピーチを通して伝え合おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の実現に向けて、話題に沿って発言したり、友達の意見を受け止めて発言したりする。 ・自分の考えが表れるような話題を選び、聞き手に伝わるように組み立てを考えてスピーチする。 ・友達のスピーチを聞いて、自分の感想をまとめて伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場に応じた適切な音量や速さで話す。 ・相手や場に応じた丁寧な話し方をする。 ・「賛成・反対・付け加え」などの言葉を知り、発言するときに使う。

5 指導計画（指導時数：13 時間）

時	小単元	学習活動	評価規準
1	学習の見通しをもち計画を立てよう	・各自が持ち寄った写真や資料，思い出の品等をもとに，自分のこれまでの 10 年間を振り返る。	（関）自分の成長や歩みについて，興味を持って振り返っている。
2		・学習計画を立て，自分たちの発表会のタイトルを決める。	（関）自分たちの発表会への思いを大事にし，祝う会の計画やタイトルについて，すすんで考えようとしている。
3	話し合っ発表会の計画を立てよう	・話し合いの進め方や，話し合いの際に気をつけること，司会者が気をつけることなどについて学ぶ。	（話）これまでの話し合い活動の経験をもとに，話し合いで気をつけなければならない事について理解している。 （言）「賛成・反対・付け加え」などの言葉を理解する。
4		・発表会の計画について，グループごとに話し合う。	（話）「賛成・反対・付け加え」などの言葉を使い，互いの考えの相違点や共通点を考えながら話し合っている。
5 6		・発表会の計画について，学級全体で話し合う。	
7	スピーチの準備をしよう	・スピーチのテーマ（柱）と構成を考え，話したい事柄を書き出す。	（話）自分の伝えたいテーマを選び，構成を考えながら話したい事柄を書き出している。
8		・1分間で話すことができる量を考えながら，スピーチ原稿を書く。	（話）1分間で話すことができる量に合わせて，スピーチの内容を考えている。
9		・スピーチ原稿をもとに，話したいことをスピーチメモにまとめ，スピーチの練習をする。	（話）スピーチの時間を考え，要点をまとめながらスピーチメモを作っている。
10 (本時)		・グループごとに，スピーチの練習をする。	（話）友達からのアドバイスをもとに，スピーチメモや話し方を検討・修正している。
11 12	発表会を開こう	・発表会を開く。	（話）話の中心に気をつけながら友達の発表を聞き，自分なりの感想をもつ。
13	活動を振り返ろう	・発表会でのスピーチや，これまでの活動について振り返る。	（関）発表会やこれまでの学習を振り返り，感想をまとめている。

6 本時の指導

(1) ねらい

話したいことが聞き手に伝わるように、話題を選んでスピーチすることができる。
場に応じた適切な音量や速さで話すことができる。

(2) 展開

段階	学習活動	教師の指導・支援	評価 【手立ての評価】
つかむ 3分	1 前時の学習を想起し、本時の学習の見通しを持つ。 (導入の工夫) 2 本時の課題を持つ。	・前時やこれまでの学習を想起し、本時の学習の見通しを持たせるように、学習計画表を提示する。	【学習計画表の提示は、前時想起や本時の学習の見通しを持たせるのに効果的だったか】
	話したいことが伝わるようなスピーチのしかたを考えよう。		
見通す 3分	3 学習の見通しを持つ。 スピーチで大切なこと ・ 伝えたいことを選ぶこと ・ 声の大きさ、話す速さ ・ 聞き手の方を向いて話すこと 学習内容の確認	・スピーチで大切なことは何かを話し合い、友達にアドバイスするときの観点とする。 ・本時の学習の進め方や、テープレコーダーやストップウォッチ、「アドバイスカード」を使って学習することを確認する。	
深める 30分	4 スピーチの練習をする。 一人で練習する (一人学び) グループで練習する。 (学び合い) 話し方やスピーチメモを修正する。 グループで聞き合う。	・自分のスピーチをテープレコーダーに録音し、スピーチメモを修正するときの手がかかりとする。 ・スピーチを聞いて気付いたことを付箋紙に書いてもらい、「アドバイスカード」に貼っていくことを確認する。 ・スピーチにかかる時間の目安を知るために、ストップウォッチを使用する。 ・テープを聞くことで、自分が話している様子を客観的にとらえることができるようにしたい。 ・どんなところが修正されたか気を付けながら聞き合い、よくなったところを認め合うようにする。	【「アドバイスカード」は、学び合いを充実させるのに効果的だったか】 (話)友達からのアドバイスをもとに、スピーチメモや話し方を検討・修正している。 (ワークシート・観察)
5分 まとめる	5 学習のまとめをする。	・どのようなアドバイスを受け、それをもとにどのような点を修正したか発表し、全体の場でスピーチする。	

振り返る 4分	6 本時の学習を振り返り， 学習感想を発表し合う。 (振り返りの工夫)	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを交流し合うことにより，本時の学びや自他の高まりを認め合うことができるようにする。 ・学習計画表をもとに，次時で話し合う議題について予告する。 	【感想交流は，学びや自他の高まりを共有するのに効果的だったか】
	7 次時の学習の予告をする。		

(3) 具体の評価規準と指導の手立て

観点	A	B	Bに至らせるための手立て
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「アドバイスカード」をもとに，話したいことが聞き手に伝わりやすい話題を選んだり，できるだけメモを見ないで聞き手に語りかけるように話したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「アドバイスカード」をもとに，話しの中心が明確なスピーチになるような話題を選んだり，声の大きさや話す速さ，目線に気を付けて話したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「アドバイスカード」に貼った付箋紙に書いてあることを読み返したり，何について話したいのか考えながら話題を選んだりするよう，声がけをする。

7 板書計画

どんなアドバイスを受けたか
どんなところを直したか

- ・ スピーチで大切なこと
- ・ 伝えたいことを選んで話す
- ・ 声の大きさ、話す速さ。
- ・ 聞き手の方を向いて話す。

話したいことが伝わるようなスピーチのしかたを考えよう。